

市立豊中病院運営計画「実施計画」
－平成25年度:実施状況－

- | | |
|----------------|--------|
| ○実施項目取り組み状況一覧表 | 1～10頁 |
| ○数値目標達成状況一覧表 | 11・12頁 |

平成26年6月

1. 医療の質の向上

① 高度・専門医療の提供	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(1) 医療スタッフの確保	病院説明会・見学会の開催や、民間事業者主催の合同説明会、学校主催の説明会に参加し、当院のアピールに努めた。また、コメディカルを含め職員の採用試験を11回実施し、医療スタッフの確保に努めた。			
多様かつ柔軟な手法による採用試験、説明会の実施による医療スタッフの安定的確保に努める。また仕事と家庭の両立が出来るよう環境の整備(院内保育所の充実、病児保育)の検討などを行い、加えて働きやすい勤務時間制度について検討を行う。				
(2) 病床の効率的な活用	7対1看護配置は、必要看護要員を満たした。病床利用率は94.2%で前年度比▲0.5%、平均在院日数は12.7日で前年度と同日数であった。	利用率・在院日数	利用率・在院日数	利用率・在院日数
全国の急性期病院においては、在院日数が年々短縮傾向にある。当院においても、将来的に同様の傾向が想定される中、更なる新入院患者確保を前提とした効率的な病床の活用		95.0% 13日以内	95.0% 13日以内	94.2% 12.7日
(3) 外来診療の充実と効率的な運用	5月より、「心大血管疾患リハビリテーション」を開始した。9月より、糖尿病腎症2期～4期までの患者を対象に、「糖尿病透析予防外来」を開始した。	外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)
入院と同様に外来機能についても、高度・専門医療を行うにあたって重要な視点となる。予約率の向上により効率的な運用を図るとともに、特殊・専門外来の充実を図ることで、外来診療の充実にも努める。		1,300人	1,300人	1,258人
(4) 救急医療体制の充実	9月30日～10月6日に救急受診患者の待ち時間調査を実施した。平均待ち時間は20.9分。(時間内:15.3分、時間外:24.0分、深夜:17.6分) 9月と3月に豊中市消防本部との意見交換会を開催し、高齢者搬送等について意見の交換を行った。	救急車搬送受入数	救急車搬送受入数	救急車搬送受入数
当院は、豊能二次医療圏のなかでは救急搬送件数の最も多い病院の1つであり、今後も公的病院としての役割を果たす必要がある。救急専門医確保による安定的な受け入れ体制確保に努めていく。		救急科からの入院患者数 5,300人 4,600人	救急科からの入院患者数 5,300人 4,600人	救急科からの入院患者数 4,650人 4,534人
(5) 手術室の効率的な運用	麻酔科管理の手術枠について、実態に合わせた診療科割当ての見直しを実施し適正化に努めた。また、異物遺残確認のためのレントゲン撮影、麻酔同意書や麻酔説明書の見直しを実施し、手術室における安全性の向上に努めた。	手術件数	手術件数	手術件数
手術室の効率的な運用により、手術待ち日数の短縮化と、これまで以上の緊急手術への対応を図ることで、地域中核病院として高度・専門医療の提供に努める。また、麻酔科医の十分な確保を図り、地域の手術に対する需要に適切に対応していく。		6,000件	6,000件	5,385件
(6) 周産期医療の充実	4月より周産期システムの運用を開始し、記録の集約ができるようになった。地域医療機関との連携により25年度の分娩件数918件中ハイリスク分娩は568件、うち多胎分娩は58件であった。	分娩件数	分娩件数	分娩件数
産婦人科医、小児科医、看護師等の人員体制の整備を中心とし、地域医療機関との連携体制を構築していくことで、「地域周産期母子医療センター」としての診療機能の維持・強化に努める。特に、当院に求められるハイリスク妊娠、多胎妊娠などへの安定的な対応に努めていく。		960件	960件	918件

市立豊中病院運営計画「実施計画」

<p>(7) がん医療の充実</p> <p>がん医療の提供、緩和ケアの推進、がん医療の地域連携体制の推進、院内・地域がん登録の実施、情報提供や相談支援の実施など「地域がん診療連携拠点病院」としての機能の維持・強化に努める。</p>	<p>がんサポートセミナーについて、2ヶ月に1回を目標に「放射線治療」、「若年・就労問題」、「在宅の話題」などをテーマに実施した。がん関連図書の公開や貸出、インターネット検索ができる「患者相談コーナー」を整備し、院内外の啓発を強化した。</p>			
<p>(8) 医療資源の有効活用</p> <p>既存の診療機能について、当院に求められている高度・専門医療の提供といった役割や需給状況に応じて柔軟に見直しを図ることで、より適切な医療提供体制整備に努める。</p>	<p>4月より「放射線科」の標榜を「放射線診断科」と「放射線治療科」に変更した。外来化学療法室の感染症病棟から3階リハビリ横への移設のための準備を進めた。</p>			
<p>(9) 放射線の管理</p> <p>チーム医療の一員として放射線などを利用した検査・治療をするに当たり患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう医療の安全・安心の向上を目指し装置の点検・保守をし被曝線量の低減等放射線管理に努めていく。</p>	<p>放射線検査装置の日常点検項目を再構築した。放射線治療装置に関して、機器の入れ替え及び必要なビームデータ等の整備を完了し、2月24日から放射線治療を再開した。</p>			
<p>(10) 急性期におけるリハビリテーションの実施と充実</p> <p>現在の中心疾患別（脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群）急性期リハビリテーションの充実を継続して行う。25年度より心臓リハビリテーションを実施する。またその充実を図るために、積極的な研修参加や部内での勉強会を引き続き行っていく。</p>	<p>新規業務として今年度より、心大血管リハビリテーションを開始した。疾患別リハビリテーションについて、各チームとも連携を取りながら進めた。作業療法部門で、学会発表を行った。</p>			
<p>(11) 治療に適切な食事の提供</p> <p>病院食は普通食以外にも、疾病の種類や摂食・嚥下の機能障害など様々な条件に対応できるように多くの種類を設定しており、さらに医師からの要望によりその種類は増えつつある。その全てがさらに院内で広く周知され、十分に活用されるよう体制づくりに努める。</p>	<p>嚥下訓練チームや栄養サポートチームなどの活動成果により、「嚥下食」や「濃厚流動食品」が院内で広く認知され、その利用が増加した。院内食事箋規約で加算治療食の文字部分は色付けを行い、食事をオーダーする際の参考となるようにした。</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>32.0%</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>30.0%</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>27.6%</p>
<p>(12) 医療ニーズの把握と検証</p> <p>外部環境分析および内部環境分析による医療需要の把握と医療供給の検討に努め、地域の中核病院として当院の果たすべき医療機能を検証する。また、検証内容は病院職員に積極的に公表し、情報の共有化に努める。</p>	<p>次期診療報酬改定の動向、病床機能報告制度の概要、DPC/PDPS制度の現状と方向性などについて検討した。</p>			

市立豊中病院運営計画「実施計画」

② 医療の安全・安心の向上	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(13) 医療安全対策の徹底 医療安全管理室を中心に全職員が、医療事故発生の防止に取り組み、各種関連学会等を通じた新たな知見を習得することによって、「安全で安心できる病院」となるよう努める。	医療安全管理研修会(5月と2月)、コンフリクト・マネジメント研修、新規採用の研修医および看護師に対する医療安全研修などを実施した。インシデントレポートの分析及びフィードバック(医会、看護師長会での報告)や5S活動の実践及び院内ラウンドを行った。			
(14) 院内感染防止対策の充実 病院内の全ての人々を感染から守るため、現行のICT(院内感染対策チーム)による更なる活動の充実を図るとともに、関係各所と協力のもと体制強化に努めることで、継続的な感染対策活動を推進する。	刀根山病院および池田病院と相互ラウンドを行い感染対策に関する評価を行った。5施設との合同カンファを6回実施した。手洗いキャンペーンとして、手洗いポスターコンテスト、手洗いクイズ、手洗い残しチェックを実施した。全職員を対象に感染対策講習会(7月と1月)を開催、また25年度から医師を対象としたICT学習会を開催した。	MRSA発生率0.4%以下 緑膿菌発生率0.4%以下 セラチア菌発生率0.1%以下 施設間ラウンド1回以上 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.45%以下 緑膿菌発生率0.45%以下 セラチア菌発生率0.1%以下 施設間ラウンド2回 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.41% 緑膿菌発生率0.49% セラチア菌発生率0.08% 施設間ラウンド2回 合同カンファ6回
(15) 災害対応と危機管理体制の確立 突然の有事に迅速かつ適切に対応できるよう職員の意識や能力を高めることを目的に大災害や大事故に備えてマニュアルの更新や訓練を実施する。 また、他地域における被災地への支援活動についても各種要請に適切な対応を図ることが出来るよう体制を整備する。	災害時において関係者が連携して、迅速・的確に対応できる体制と職員の防災意識の高揚を図るための大規模災害訓練(9月)を実施するとともにマニュアルの検証を行い、必要な修正を行った。			
③ 情報化の推進と職員教育の徹底	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(16) 市立豊中病院総合情報通信システムの充実 電子カルテ更新について、「運用の効率化と安全性の向上を図るためにはどのような機能が必要なのか」という視点で更新する。	新サーバ室増設に伴いコンピュータ室の仮移設を行った。医療情報化計画に基づき各施策の実施確認を行い、TOPICSの更新について、プロポーザル方式により業者を決定した。マイクロソフト社、アドビ社及びジャストシステムのライセンスの把握及び棚卸しを実施(資産管理調査率80%)した。			
(17) 個人情報保護に係る研修の推進 セキュリティシステムの構築と並行して、研修等を通じ職員の個人情報保護の意識を高める取り組みを実施する。あわせて、カルテ及び診療諸記録の紙媒体ならびに電子媒体の実態に即した、運用管理の構築と保存の徹底を図る。	eラーニングの利活用として4月に情報セキュリティ研修、7月にICT手洗いクイズ等を行った。USBメモリー所持の確認を実施した。外部講師によるセキュリティ講習会(10月と3月)を実施した。eラーニング受講者数535人。			
(18) 診療情報管理の徹底 精度の高い診療情報の整備ならびに情報提供依頼に即応できる管理体制の構築に努める。管理体制の構築にあたっては、診療記録の質の向上を図り、職員に対する意識づけや管理方法の改善等を継続して実施していく。	予後調査は、2007年診断症例および2008年・2009年診断の受診状況の確認を実施。登録文書である入院診療計画書は、担当部署と協議を行い一定の整理ができた。			

市立豊中病院運営計画「実施計画」

(19) クリニカルパス充実による医療の標準化		クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率
<p>質の高い医療の標準化を目的に、クリニカルパスの充実を図る。クリニカルパスを適用することで医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与する。</p>	<p>看護に着目した肝臓がん内科的治療パスのバリエーション分析を行った。また、看護だけでなくDPCと関連付けた評価もを行い、パス大会で発表した。</p>	50%以上	50%以上	50.79%
<p>④ 医師及び看護職員の業務負担軽減</p>	<p>25年度の取組状況</p>	<p>29年度目標</p>	<p>25年度目標</p>	<p>25年度実績</p>
<p>(20) 医師の業務負担軽減</p> <p>医師の業務負担軽減策を検討する。業務負担軽減策の1つとして医師事務作業補助体制の充実を図る。また、平成24年度より試行的に導入している外来メディカルアシスタント(MA)の拡充についても検討していく。</p>	<p>外来MA(医師事務作業補助者)の試行実施をし、小児科・皮膚科・救急科に追加配置を行い、病棟MAの支援も行った。応援医師等の活用については前年度比180回増加した。</p>			
<p>(21) 看護職員の業務負担軽減</p> <p>近年診療報酬上においても、看護職員の負担軽減を促進することが積極的に推進されている。看護補助体制の充実による業務負担軽減の可能性や職種間での業務分担のあり方を検討していく。</p>	<p>看護職業業務負担軽減推進プロジェクトチームを立ち上げ、業務量調査(11月)を実施した。高機能オムツ利用の仕組みを作り11月に導入した。看護補助員の業務拡大と質の向上を図るため実技演習を行った。また各部署で業務内容チェックリストを使用して、個人の業務習得度に応じた指導を実施した。</p>			

2. 患者サービスの向上

① 接遇および患者の利便性向上	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(22) 患者満足度の向上 入院患者および外来患者を対象とした満足度調査を計画的に行い、調査結果から得られた課題・問題点を分析し、患者サービスの視点から改善方法等を検討、実施する。また、投書(意見箱)などを通じ、患者・家族からの意見や要望の把握に努めるとともに、患者ならびに家族等の不安を軽減すべく、患者相談体制の一層の充実に努める。	外来・入院患者を対象に患者満足度調査(11月)を実施した。医療費自動精算機による診療明細書の発行について検討を進め、26年4月稼働を目標に準備した。	患者満足度 前回調査を上回る (入院95.2%、 外来84.7%)	患者満足度 前回調査を上回る (入院95.2%、 外来84.7%)	患者満足度 (入院93.5%、 外来83.6%)
(23) 接遇の向上 患者・家族と病院職員の信頼関係を向上することを目的に、全職員を対象とした接遇研修の継続的な開催を行う。併せて、より職員が医療現場で生かすことが出来るような効果的な研修の内容についても検討を行い、接遇マナーの徹底に努める。	新規採用職員・異動職員向け接遇研修会(4月)を実施した。また、職員向けの接遇研修会(11月)を実施した。「市立豊中病院接遇マニュアル」を策定(3月)し、院内HPに掲載した。			
② 待ち時間対策および院内環境の整備・充実	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(24) 診察・各種検査待ち時間の対策 外来診察や各種検査の待ち時間・日数について、人員体制やシステム的なハード面や、運用面といったソフト面の改善により、これらの待ち時間の短縮を図ることが出来ないか検討を行う。特に紹介予約患者における待ち時間短縮を優先に検討を行う。	院内情報サービスシステム(とよなか病院ねっと)について当院オリジナルコンテンツの作成および保健所との連携による情報(健診・食育・脳卒中)などコンテンツの充実化に努め、待ちの体感時間の短縮を図った。患者待ち時間調査は、予約患者が41分、予約外患者が76分であった。			
(25) 売店機能などアメニティの充実 患者さんや職員の利便性の確保のためコンビニエンスストアを設置する。またアメニティの充実について検討を行う。	平成26年2月28日にコンビニエンスストアをオープンした。院内情報サービスシステム(とよなか病院ねっと)を導入し、11月より本格的に稼働を開始した。			
(26) 食事療養の充実 病院食については「栄養管理」はもとより、食材・調理法・味付けにおいても一層充実した病院食提供が求められている。定期的な嗜好調査等の実施を通じて、より患者にとって満足度の高い食事提供に努める。	月に一度「シェフのおすすめメニュー」をレシピ付きメッセージカードと共に提供し好評を得た。また、10月より月に一度、家庭でも比較的つくりやすい野菜たっぷりメニューを「デリレシピ」と名付け、レシピ付きメッセージカードと共に提供した。	シェフのお勧めメニュー 2回/月	シェフのお勧めメニュー 1回/月	シェフのお勧めメニュー 1回/月

市立豊中病院運営計画「実施計画」

③ 地域への貢献	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
<p>(27) 市民向け講演会・講座の開催</p> <p>地域の中核病院として、講演会や講座の開催を通じて、患者・地域住民に対する啓発活動に努め、より身近な病院として信頼向上を図る。</p>	<p>心不全看護認定看護師による「心不全を予防する」 認知症看護認定看護師による「認知症の話」 (がん医療市民公開講座)泌尿器科医師による「膀胱がん・前立腺がんの診断と治療」 精神科医師による「認知症と介護予防」 脳卒中看護認定看護師による「みんなで防ごう脳卒中」 (中学生対象)助産師・母性看護専門看護師による「性教育」などの講演・講座を実施した。</p>			
<p>(28) 広報機能の充実</p> <p>広報機能の一層の機能充実を図ることで、病院のPR強化に努める。既存の広報ツールや情報収集のプロセスにおいて、不十分な点や見直しの余地が残されている点を抽出し、全病的な取り組みが展開出来るよう、体制の整備に努める。</p>	<p>ホームページについて、動画データの配信(病院長ブログ100回記念、放射線診断科・治療科紹介、後期研修医紹介動画)、各チームの紹介ページ作成、診療科案内の更新、病院食レシピの掲載、創立70周年記念特集ページの開設など充実に努めた。「病院だより」を発行した。(年4回)</p>			

3. 医療連携の推進

① 地域における医療機関との連携	25年度の実績	29年度目標	25年度目標	25年度実績
<p>(29) 地域医療支援病院機能の維持・充実</p> <p>紹介・逆紹介の推進、在宅医療の支援、地域医療従事者に対する研修の実施、市民等への医療情報発信など「地域医療支援病院」に係る機能の維持・充実に努める。</p>	<p>登録医療機関マップの病院ホームページ掲載を実施した。看護部の褥瘡対策や認知症研修会、NST学習会など地域医療従事者への研修機会の提供を充実した。ターミナル期訪問対象患者増に対応するため、訪問看護体制を整備した。</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率</p> <p>60.0% 70.0%</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率</p> <p>58.0% 68.0%</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率</p> <p>57.4% 66.1%</p>
<p>(30) 病病連携・病診連携の推進</p> <p>当院の診療機能・専門領域などのPRに努めるとともに、地域医療機関との信頼関係の構築により患者へのシームレスな医療提供を図る。</p>	<p>「診療のご案内」、「チーム医療」を発行した。登録医総会を「がん地域医療従事者セミナー」後に開催した。また、登録医制度参加について歯科医師会の協力を得て各医院へのインフォメーションに努めた。</p>	<p>登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科)</p> <p>80.0% 70.0%</p>	<p>登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科)</p> <p>76.0% 66.0%</p>	<p>登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科)</p> <p>74.2% 66.5%</p>
<p>(31) 4疾病を中心とした地域医療連携パスの拡充</p> <p>現在、地域の医療機関と協力して「がん」、「脳卒中」、「糖尿病」、「急性心筋梗塞」、「大腿骨頸部骨折」といった疾病の地域連携パスが稼働している。今後も、地域全体でのシームレスな医療提供体制の充実に努めるべく、対象疾患ならびに連携医療機関の拡充を図っていく。</p>	<p>がんを除く地域連携パスについては、保健所等が主催する連絡会議に参加し、患者予後の情報交換や運用上の疑義解釈、必要なパス改訂などの議論を行った。5大がんと泌尿器系パスの適用患者累計425件、連携医療機関累計213機関となり、がん地域連携パス推進を図った。</p>			
<p>(32) 臨床検査講演会・技術講習会の開催</p> <p>地域における医療機関の医師、臨床検査技師や看護師などの医療従事者を対象に、臨床検査をテーマとした講演会や技術講習会を開催し、最新の情報を提供するとともに情報交換を行い、医療水準を高めていく。</p>	<p>超音波検査の実技講座は生理機能検査部門が担当し、院内で26年度実施することを決定した。</p>			
② 自治体立病院、特定機能病院との連携	25年度の実績	29年度目標	25年度目標	25年度実績
<p>(33) 圏内市立病院および特定機能病院との連携</p> <p>各病院の医療提供体制や地域性、自治体の意向等も考慮した上で、二次医療圏内として最適な機能分担のあり方を検討する。なお、当該連携にあたっては、機能分担のみならず、各種情報連携のあり方といった点も含め検討を進める。</p>	<p>北大阪5病院会議などを通じて情報交換に努めた。また、豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会や豊能医療圏脳卒中地域連携パス会議などを通じて、連携強化に努めた。</p>			

4. 経営基盤の確立

① 収益の確保	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(34) 診療報酬の適正な算定 診療報酬算定については月次レベルでの算定状況確認に努める。特に医学管理・在宅療養に係る算定項目は業務運用による部分も大きいため、関連する業務運用の検証も適宜行っていく。またレセプト減点率や保留削減にも継続して努めることで適切な精度管理も行っていく。	審査機関によるレセプト縦覧点検、突合による検査や投薬の減点に対して、速やかに診療科部長、主治医へ情報提供を行い減点抑制に努めた。医師や看護師等から診療報酬算定について問い合わせがあった場合には、算定漏れに繋がらないように情報提供した。	減点率	減点率	減点率
(35) DPC/PDPS制度への対応 適正な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。	「DPC導入の影響評価に係る調査」及び特別調査に対して、遅延なく正確なデータ提出ができた。DPC決定傷病名が詳細不明コードの場合、診療科部長へ相談し、より詳細な病名付与のルール化を図り、コーディングの精度向上に努めた。			
(36) 未収金の発生抑制と督促体制の強化 適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの視点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑制については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。	窓口での催告や督促状の送付(1,263件)を実施し、未収金回収に取り組んだ。また、救急入院患者には入院後、高額療養費等の説明を行い、未収金発生抑制に取り組んだ。限度額認定書の説明は1,680件行った。	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率
(36) 未収金の発生抑制と督促体制の強化 適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの視点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑制については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。		99.0%以上 20.0%以上	99.0%以上 20.0%以上	97.05% 20.19%
② 費用の抑制、軽減	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(37) 後発医薬品導入の検討および導入効果の検証 後発医薬品への切り替えについては、安全性の確保を最優先とし、今後の薬物療法の変化、他病院での使用状況、流通状況、納入価格、切り替え効果などを鑑み、検討していく。	新たに薬価収載された後発医薬品について、薬剤情報や薬価情報、納入状況等の情報収集を行い、次回切替え品目の検討を行った。平成25年度に後発医薬品に切り替えた30品目について、経済的効果と安全面の検証を行った。後発医薬品の採用品目数は総数190品目で安全面での問題はなかった。			
(38) 材料費の抑制・軽減 材料の価格交渉の実施について、各々の特性に応じた交渉方法を検討していく。また他病院とのベンチマークを元にした現行採用物品の価格の適正化や新規採用物品の価格交渉活動を行う。	診療材料および医薬品について、ベンチマークを元に仕入業者との価格交渉を行い、購入価格の抑制に努めた。廃油や古紙、ダンボール等の売払いを実施した。			

市立豊中病院運営計画「実施計画」

(39) 光熱水費の抑制・軽減	照明の間引き、ウォシュレットの暖房便座の停止、空調温度の調整などを行った。エネルギー合計：原油換算量として、23年度と25年度の比較では、1.7%の減となった。電気の使用量は5.1%の減、ガスの使用量は2.2%増となった。			
全職員に対してコスト抑制に対しての意識を働きかけていくことで、光熱水費などの諸経費の抑制・軽減に努める。				
(40) 施設の計画的な整備	コージェネレーションシステム設計が完了し、26年2月に工事契約を締結した。長期修繕計画に基づき、大型搬送設備更新工事を2月に完了した。曝気ポンプ更新その他4件の改修については、設計を3月に完了した。			
平成24年度に作成した施設の修繕・整備計画に基づき建物や設備の改修を実施する。また、コージェネレーションシステム（熱電併給）の更新などを実施する。				
(41) 医療機器の計画的な整備	放射線治療システムについて、円滑な更新ができるよう関連部署による情報共有を図りながら計画的な整備を行った。平成26年度で、64列CT、手術支援装置など2千万円を超える高額機器9件を含む総額約17億円の購入を決定した。			
地域の急性期中核病院として必要な高額医療機器について、導入の緊急性や需要見込み等を考慮しながら適切な更新計画を策定のうえ整備する。また、とくに重点化を図るべき分野については、優先的に整備する。				
(42) 超音波装置の中央管理実施	超音波機器管理センターを設置し、院内にある超音波機器のリストアップおよび使用状況の調査を行った。また、故障におけるデータベースの作成や26年度予算申請機器の評価を行った。			
超音波センターを設置し、院内の超音波検査装置を臨床検査部で統括管理する。効率よい運用ができるよう配備し、必要に応じて点検やメンテナンスなどを行う。また適切な更新計画を策定する。				
③ 運営管理体制の構築	25年度の取組状況	29年度目標	25年度目標	25年度実績
(43) 職員のモチベーション維持向上	職場におけるハラスメント対策について病院独自の要綱である「市立豊中病院職員のハラスメント防止等に関する要綱」を策定した。学会の評議員・代議員の用務にかかる出張旅費の公費負担の決定・運用を開始した。			
公平で透明性の高い業績評価制度の導入を図ることで、日常業務に対するモチベーション向上に努める。当該制度導入にあたっては、経営的な視点の他に、日常業務に対する姿勢や行動といった視点を踏まえた制度設計に努める。その他、時間外勤務労働についても業務効率化を図ることで削減することをめざす。				
(44) 研修制度の充実	平成23年度より実施している職種を超えた「演題発表会」を1月に開催した。10月、臨床倫理検討会を講演会形式にて実施。豊病協会員病院からも3施設、計10名が参加した。認定看護師資格取得にかかる支援制度改正を行った。			
高度・専門医療の提供の実現にあたって、人材育成は最も重要な要素であり、病院全体として充実を図る。また、当該取り組みを対外的に積極的にPRしていくことにより、患者だけでなく医療スタッフにとっても魅力ある職場づくりを推進していく。				

市立豊中病院運営計画「実施計画」

(45) 地方公営企業会計制度改正への対応				
<p>企業会計基準との整合を図ることを目的として、地方公営企業会計制度が改正された。借入資本金の負債計上や退職給付引当金、賞与引当金等の義務化、リース会計の導入など、大きく制度が変更されるなかで、これらの制度改正に対応する必要がある。また、財務諸表・健全化指標への影響の把握に努め、良好な経営基盤の確立に向けて取り組みを行う。</p>	<p>資本制度について、議会の承認を得て減資により累積欠損金の解消を行った。会計基準については、会計規程の作成、新年度予算科目の作成、財務会計システムのリリース、各引当金の算出、リース会計における資産額の調査等を行い、新会計基準に対応した。</p>			
(46) 病院機能評価による機能向上				
<p>病院機能評価の認定更新により、現状の優れている点や改善すべき問題点を客観的に把握し、改善に努めることで病院機能の向上及び効果的なサービスの改善につなげる。</p>	<p>9月に「病院機能評価検討委員会」を設置し、役割分担の決定、模擬自己評価の実施などを行った。日本医療機能評価機構より講師を招き、新バージョンの概要についてセミナーを実施した。</p>			
(47) 経営状況・業務実績の共有化				
<p>全職員が病院の経営状況を理解し日常の業務に柔軟に対応出来るよう、周知の方法や周知する内容等も工夫を図る。目標に対する達成度や現状の課題を認識することで、迅速な経営判断・実行への着手を図っていく。</p>	<p>「運営方針について」(4月)、「院内通信」(5月、8月、2月)、8月に「後期実施計画の総括」(8月)、「年度別収益的収支決算比較表」(11月)、「市立豊中病院の経営状況」(12月)を院内ポータル及び院内HPに掲載し、全職員への情報共有に努めた。</p>			

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度見込)	目標値(平成29年度)	目標値(平成25年度)	実績値(平成25年度)
2	病床の効率的な活用	◎病床利用率	94.5%	95.0%	95.0%	94.2%
		◎平均在院日数	12.5日	13日以内	13日以内	12.7日
3	外来診療の充実と効率的な運用	◎外来患者数(1日平均)	1,270人	1,300人	1,300人	1,258人
4	救急医療体制の充実	◎救急車搬送受入数	4,700人	5,300人	5,300人	4,650人
		◎救急科からの入院患者数	4,600人	4,600人	4,600人	4,534人
5	手術室の効率的な運用	◎手術件数	5,500件	6,000件	6,000件	5,385件
6	周産期医療の充実	◎分娩件数	920件	960件	960件	918件
11	治療に適切な食事の提供	◎特別治療食の比率	30.9%	32.0%	30.0%	27.6%
14	院内感染防止対策の充実	◎MRSA院内発生率	0.45%	0.40%以下	0.45%以下	0.41%以下
		◎緑膿菌院内発生率	0.45%	0.40%以下	0.45%以下	0.49%以下
		◎セラチア菌院内発生率	0.12%	0.10%以下	0.10%以下	0.08%以下
19	クリニカルパス充実による医療の標準化	◎クリニカルパス利用率	50.00%	50.0%以上	50.0%以上	50.79%
22	患者満足度の向上	◎患者満足度調査結果、満足しているとの回答(入院患者)	95.2%	前回調査を上回る	95.2%超	93.5%
		◎患者満足度調査結果、満足しているとの回答(外来患者)	84.7%	前回調査を上回る	84.7%超	83.6%
26	食事療養の充実	◎シェフのお勧めメニュー回数	1回/月	2回/月	1回/月	1回/月
29	地域医療支援病院機能の維持・充実	◎地域医療支援病院紹介率	57.5%	60.0%	58.0%	57.4%
		◎地域医療支援病院逆紹介率	63.5%	70.0%	68.0%	66.1%

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度見込)	目標値(平成29年度)	目標値(平成25年度)	実績値(平成25年度)
30	病病連携・病診連携の推進	◎登録医制度契約率(医科)	75.1%	80.0%	76.0%	74.2%
		◎登録医制度契約率(歯科)	64.0%	70.0%	66.0%	66.5%
36	未収金の発生抑止と督促体制の強化	◎現年度分収納率	98.93%(入院)、97.48%(外来)	99.0%以上	99.0%以上	97.05%
		◎過年度分収納率	10.67%(入院)、13.24%(外来)	20.0%以上	20.0%以上	20.19%
39	光熱水費の抑制・軽減	◎電気ガスエネルギー使用量	4,659kl (原油換算)	現在値より5%削減	現在値より1%削減	1.7%減
—	経営基盤の確立	経常収支比率	98.7%	100%	100%	99.7%
		入院診療単価	55,700円	58,000円	(予算) 56,500円	55,062円
		外来診療単価	13,200円	14,000円	(予算) 13,300円	13,503円